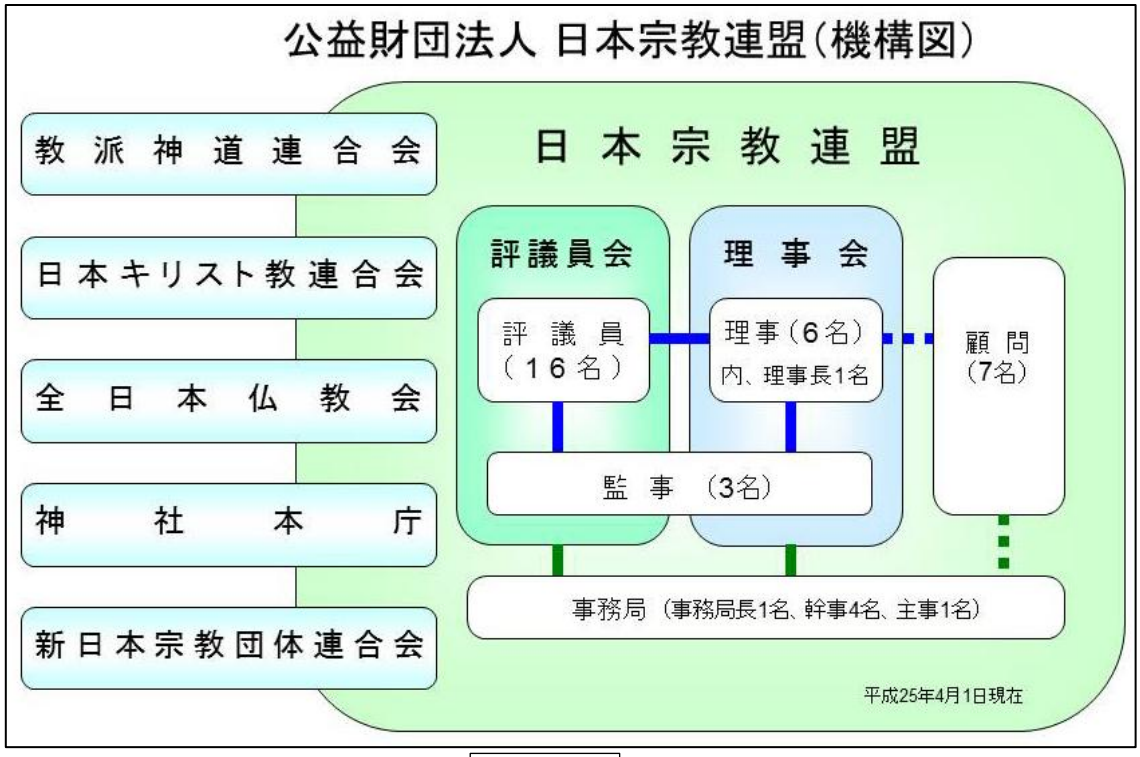
１．宗教団体による全国的な組織連携

図－30のとおりの日本宗教連盟（公益財団法人）の動きのこと。同連盟のインターネットＨＰより拝借したもの。教派神道連合会（出雲大社教・黒住教他）、日本キリスト教連合会、公益財団法人全日本仏教会、宗教法人神社本庁、公益財団法人新日本宗教団体連合会（立正佼成会他）の五団体の緊密な提携による協力と、関係諸団体との連携によって事業を行っている、とある。私は、それぞれの宗教がバラバラに独自の活動で閉塞していると思っていたら、何と共通デーブルを持っていることにびっくりした次第である。何と素晴らしいことか！



図－30

それぞれの宗派には、絶対に譲れない教義という大芯棒を打ち立て、我らこそが宇宙の中心にいるのだと確信しているに違いない、殊更に他宗派との違いを強調し、差別化を図り、人心に食い込もうとしていることだろう。このような状況において、互いに批判し合った処で相手が屈服することは絶対にない。宗教とは根源を辿れば、人間の心模様と表裏一体であるから、人間の尊厳という建前を叫んでも溶け合って一つになることは絶対にない。

一方で、宗教は個人の蒙昧心を救済し、社会の安寧を希求する目的においては同じと言える。そのために知恵を出し合う場を作ろうということだと考える。個人も組織においても「お互いは異なる、違う」ことを前提に、社会構築を進めるに当たっては、それぞれの特徴を披露しあう、特性を持ち寄るプレゼンテーションの場がとても大切だと思っている。逆に言うと、何事も社会協働事業においては、批判合戦はしない、「それぞれの特徴を披露しあう、特性を持ち寄る場である」という前提に立つことが必要である。

２.「神仏霊場会」の発足と活動

同会ホームページや「神仏霊場ものがたり（同会・編)」「不思議の国・ニッポン（神尾登喜子著)」等の関連書籍を参考に、明治の神仏分離以降閉ざされていた神仏習合の儀式を復活する動きが関西を中心に拓かれて来たことから特徴的なものを取り上げる。

（１）神仏習合再興の芽吹き

2003(平成15)年11月７日斎行された、「清水寺と石清水(いわしみず)八幡宮」による国家安泰世界平和祈願祭について触れる。京都石清水八幡宮（の神職）が京都清水寺（世界遺産にも登録され金閣寺と双璧を成す京都最大の観光地）に出向き、同寺において斎行した。導師は清水寺の森貫主が、斎主は石清水八幡宮の田中宮司が務めた。同寺の奥之院御本尊である三面千手観世音菩薩という「仏」に対しての祭祀であり、もちろん奉仕対象は「神」ではない。

田中宮司は、「仏」に対して神職の作法で「音に聞く東山三十六峰の中にしも別けて名高い音羽山三筋の瀧の音も床しき清水寺の奥之院に常に隠身の御本尊と御座して今も桃園天皇の御代宝暦十年以来御開帳の節に臨み此の御堂の内に出で坐し最も貴き御躰(ごたい)を顕し給へる掛けまくも綾に畏(かしこ)き三面千手観世音菩薩を首(はじ)め奉り本堂御本尊と御名は称へて常も御厨子の内に隠座(かくま)せる十一面千手観世音菩薩更には脇侍地蔵菩薩毘沙門天並二十八部衆等の御前に石清水八幡宮宮司田中恆清慎み敬ひも白さく」と祝詞を奉上した。

一方、森導師は仏教法要の文言で神号（神々の名)「天照大神・八幡三所・加茂下上・松尾・平野・稲荷・大原・春日・住吉・山王・新羅・北野・鹿島・八坂の諸大明神、守護伽藍、十六善神、地主明神、一百余社ノ諸大明神等」を読み上げ・勧請し、般若心経を読誦したという。

つまり、前者は、神職（神）は「仏」に敬意を表し、後者は、僧侶（仏）は「神」に敬意を表したのである。お互いに相手方を尊重しつつ自前の作法を交換したのである。

斎主・加藤隆久(生田神社宮司)
導師・森本公誠(東大寺長老)
典儀―西中道(石清水八幡宮補宣)
司会―神尾登喜子
・修祓
・降神の儀―天照大御神、天神地祇八百萬神
・献饌(けんせん)
・祝詞奏上
・表白
・般若心経
・神楽奉奏、豊榮舞
・玉串拝礼
・撤饌(てっせん)
・昇神の儀

図－31

（２）「神仏霊場会」設立

2008（平成20）年３月２日(日)比叡山延暦寺において「神仏霊場会」の設立総会を開催した。この会は、明治の神仏分離以来大凡140年の歴史を越えて、近畿一円の伝統ある150社寺（ホームページで確認可、名立たる社寺は殆ど）が参集した。

その年の９月８日(月）伊勢神宮において最初の神仏合同の「神仏霊場会発足奉告式典」を挙行した。その式典の次第は図―31上のとおりで、様子の一部が同図下のとおり。加藤斎主な

らびに森本導師と共に田中恆清石清水八幡宮宮司ならびに半田孝淳延暦寺天台座主の４人を先頭に参列者が後に続き、宇治橋を参進し、五十鈴川における手水の儀を経て、内宮御正殿へ歩みを進めた光景は誠に圧巻であった。その後今日まで寺院と神社が交代で毎年総会を開いています。現在に至っては、比叡山延暦寺と宇佐八幡宮の法要交流、清水寺と石清水八幡宮の合同世界平和祈願法要、京都仏教界と京都府神社庁合同の護摩供養など神仏和合の行事が行われ発展的に進みつつあります。――と記載されている。

この「神仏霊場会」では、簡単に言うと「神前で僧職の作法に依る読経」を行い、「仏前で神職の作法に依る祝詞奉上」を実際に行っている。初めてこのことを知る人は「本当か」と疑いたくなる。それも一部の小さな独善的一宗派が行う事ではない。和歌山県（熊野三大社・青岸渡寺他）、奈良県（春日大社・東大寺・法隆寺他）、大阪府（大阪天満宮・四天王寺他）、兵庫県（生田神社・須磨寺他）、京都府（石清水八幡宮・八坂神社・清水寺・金閣寺他）、滋賀県（日吉大社・延暦寺他）の寺社です。もちろん世界遺産登録の旧跡や世界の観光客が訪れる名所が殆ど含まれている。

３．「山形県宗教者懇話会」の活動

その１；　わが国におけるメジャー三大宗教「神・仏・キ」の地方レベルにおける庄内宗教４団体共同のイベント／（図－32）を取り上げる。一堂に会し、各宗教の様式に則り、それぞれが祝詞、読経、聖歌を奉納したという、それも出羽三山三神合祭殿で挙行したのである。政治の国際舞台では永世中立国スイスを会場とすることはままあるように、どこかのホテルではない（Non）のでだ。同じ空間でそれぞれの格式を相互尊重する関係者の度量・寛容度に敬服する。

宗教の枠を超えて
震災犠牲者に祈り
鶴岡・出羽三山神社

「東日本大震災犠牲者慰霊・復興祈願」が17日、鶴岡市の出羽三山神社三神合祭殿で行われた。震災から3年半余りの被災地の現状に思いをはせ、県内の各宗教関係者が祈りをささげた＝写真。

県宗教者懇話会（会長・清原浄田立石寺前住職）が主催し4回目。県内の神道、仏教、キリスト教などの関係者約130人が参加した。

僧侶や神父ら各代表が玉串をささげ、清原会長があいさつし、宮野直生宮司が講話した。祈りや祝詞、読経、聖歌といった各宗教の様式にのっとって犠牲者の冥福と1日も早い復興を願った。

2014(H26)年10月18日（土）山新

・神道
・仏教
・キリスト教
・新宗教　立正佼成会
の関係団体

図－32

その２；「山形県宗教者懇話会」は 1997（平成９）年４月に設立している。なお、同様の組織「庄内宗教者懇話会」が 2013(平成 25)年６月 24 日(月)に設立している。前者事務局は、立正佼成会山形教会が担当しているとの話を聞いて、2014(平成 26)年 12 月 25 日（木）同会に出向いて来た。アポなしの訪

問にも係らず担当の部長さんから親切に対応して頂き、1994(平成６)年の発起人会の趣意書＝図(表)－33を頂戴することが出来た。平易な言葉であるが、格調高い精神とその方向性が綴られている全文を掲載して見る。下線の部分は、私が引いたもので、特に着目した部分である。率直な表現に同感・納得し感激した。

「山形県宗教者懇話会」発足趣意書

この度、親愛なる宗教者の皆さま方と共にふれあいの機会を与えて頂き、意義深い発足行動の実現を目指したいと思います。

常日ごろ、人間の魂の平和、人と人との間の平和、ひいては世界の平和のために尽力されておられる宗教者の皆さま方と、一堂に会して語り合うという事が、わたくしたちの念願であります。

かつて、宗教者はおのおのがもつ宗教信念のゆえに、互いに協力する事ができず、むしろ反目しあってきたというのが実状であります。しかし、交通・通信機関の発達によって、地球はきわめて小さくなり、科学の進歩によって地球を客観的に眺めうる時代を迎えて、人類家族の結束が真剣に考えられる段階にいたっております。かかる時代に、武力ではなく、人間尊重の精神によって、平和な世界を創造する事の原動力たり得るものは、宗教以外にはない、と思うのであります。

いまこそ、宗教なるがゆえに対立するのではなく、人間の幸福と救いという共通の願いをもつ宗教なるがゆえにこそ、相協力して、世界平和のために貢献しなければならぬという深い責任を感ずるのであります。その事が神のみ心、仏の精神を地上に実現しようとする、わたくしたち宗教者の使命であって、そのために、わたくしたち宗教者は、『何をなすべきか、何ができるのか』を、この懇話会において、真剣に語り合いたいものであります。わたくしは、一面識もなかった各宗教者の方々と語り合ううちに、社会浄化に対する互いの熱意を確認し、同志を見いだしたという喜びを抱いたのであります。そして、この理解は、やがて信頼となり、信頼による話し合いは友情を生み、ついには宗派の壁をのりこえて宗教協力に高まり、宗教者懇話会を実現出来ますよう念願しているものであります。それは利害や打算で成し得るものではなく、また、仏教徒とか、キリスト教徒といった範疇に埋没していて叶う事ではありません。ただ一途に、人類の幸福のために貢献する宗教者として、力を合わせて何をなすべきか、という一点にしぼって活動を展開する事こそ、可能であるわけです。

社会の現状は、確かに宗教否定、もしくは無視の傾向が強いといわれる今日であります。しかし、神仏を信じる・信じないに係らず、人々の魂の最も深いところで、「果たして、人間のあり方に、これでよいのか―――」という疑問とともに、時と所を越えた普遍の真理にもとづく人間の歩むべき道を求めている事も否定できません。すなわち、盲日に等しい科学の暴走と、世界中に充満する不調和現象に対する不安と反省が徐々に湧きつつある事も事実でありましょう。いまや、人類は、地球という一つの船に乗った兄弟である、という表現がなされるときに、ある者は腹ふくれる思いをし、また一方では飢えに苦しむ者があるというのが、世界の現状であります。

さらに、こうした不調和の中で最も反省すべき事は、過去に於ける、わたくしたち宗教者間の不調和であって、これに対する深い懺悔が、まずは最初になされるべきでありましょう。この反省と懺悔の上に立って、討議し、協力してこそ、この宗教者懇話会が、必ずや社会浄化と人類の福音となるような結果を生み出す、と思うのであります。

わたくしたちは、以上の事を念願して、この会の発足を迎えたいと思います。

最後に、ご理解ある皆様方の力強いご賛同を頂けますならば、この上ない幸甚とするものであります。

合掌

平成六年十月吉日

発　起　人

図(表)－33

４．天草八十八所霊場巡礼

三大メジャー宗教「神・仏・キ」が一体となった取り組みのこと。３回目の四国へんろの時に知ったものである、ある宿にあった小冊子「平成 27 年度版　天草遍路指南書（天草八十八ケ所霊場先達会編)」を参考に簡潔に記述しる。

「・・・天草と言えば、キリシタンというイメージが強いが、実際には、キリシタンよりも弘法大師信仰の方が昔から根強く現代まで残っている。そして、2014(平成 26)年５月に弘法大師空海が真言宗を開かれた京都教王護国寺・東寺の松崎全信僧正参列の元に「天草八十八ケ所霊場」を復興した。図(表)－34 のとおり四つの仏教宗派と御堂（キリスト教）で構成している。・・・」

図－35 は当該霊場の場所である。図－36 はネット「天草八十八ヶ所霊場 巡り」サイトより拝借したもの。私も「神・仏・キ」の御朱印を並べて見たい！　是非とも行って見たい地域である。

宗　派	数
真言宗	２ケ寺
曹洞宗	２４ケ寺
浄土宗	２１ケ寺
浄土真宗	１ケ寺
御　堂	４０ケ所
合　計	８８ケ所

図(表)－34

図－35

図－36

(end)